

Hello! FUJISEI

No.258

死因は、医療技術の進歩や社会的な変化により変わってきます。

厚生労働省の「平成26年人口動態統計月報年計（概数）」によると、平成26年の死亡数・死亡率（人口10万対）を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物（がん）で36万7943人、293.3、第2位は心疾患19万6760人、156.9、第3位は肺炎11万9566人、95.3、第4位は脳血管疾患11万4118人、91.9となっています。

主な死因の年次推移をみると、悪性新生物は、一貫して上昇を続け、昭和56年以降、死因順位の第1位となり、平成26年の全死亡者（127万

社会的変化と共に変わる死因順位

年間3.5人に1人が がんで亡くなる！

3020人）に占める割合は28.9%で、全死亡者の3.5人に1人は悪性新生物で死亡したことになります。

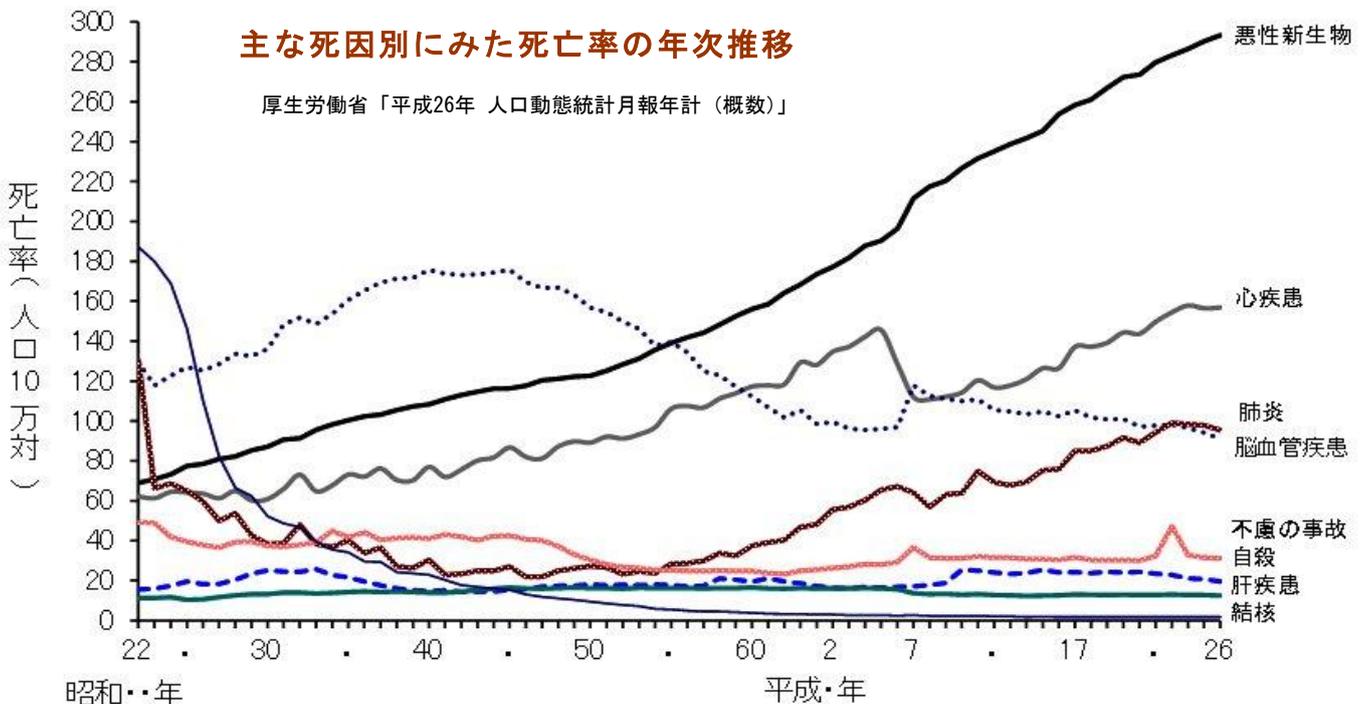
心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も死亡数・死亡率ともに上昇傾向が続き、平成26年は全死亡者に占める割合は15.5%となっています。なお、平成6、7年の低下は、死亡診断書において「死亡の原因欄に疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの影響と考えられています。

肺炎は、昭和55年に不慮の事故にかわり第4位となり、その後も増加傾向が続き、平成23年には脳血管

疾患にかわり第3位となり、平成26年の全死亡者に占める割合は9.4%となっています。

脳血管疾患は、昭和26年に結核にかわり第1位となりましたが、昭和45年をピークに減少し始め、昭和56年には悪性新生物と入れ替わり第2位となりました。その後も死亡数・死亡率ともに減少傾向が続き、昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、平成23年には肺炎にかわり第4位となり、平成26年の全死亡者に占める割合は9.0%となっています。

平成7年と23年の「不慮の事故」の増加は、阪神・淡路大震災と東日本大震災の影響です。



AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル